カンボジア農村部における家内産業の可能性

— シェムリアップ州ポピセ村におけるラタン手工芸品産業について —

Maung Maung Lwin
山　川　貴　裕

はじめに

東南アジアの一国であるカンボジアは，長期にわたる国内外の混乱が収束し経済社会状況の安定が見られるようになり，近年 ASEAN 諸国の中でも高い成長率を記録している。それを牽引する産業は，首都プノンペンを中心とした繊維産業とシェムリアップ州やシアヌークビル州をはじめとした観光産業である。シェムリアップ州には現在，多くの外国人観光客が訪問しており，ホテルやゲストハウス，レストラン，土産品店等が建設され，市街地は開発が進んでいる。しかしその一方で，州人口の大部分は未だに農村部に居住しており，この州はカンボジアの中でも貧しい州の一つという位置に留まっている。農村居住者の多くは，農業など第一次産業に従事しているが，その傍らで土産品向けや農村部での使用のために土着の技術に基づく非農業活動 (シルク織り製品，木彫り製品，石の彫刻製品，竹細工製品等) を行う農民もいる。

本稿の目的は，シェムリアップ州内のポピセ (Por Pise) 村を調査分析し，当村の社会経済状況と村内で行われている家内産業の現状と課題及び将来性を明らかにすることである。各世帯を訪問し得られたデータを用いて，男女別人口分布，世帯当たり所得分布，男女別世帯主状況，世帯貧困状況，村内の不平等状況，世帯当たり消費状況，世帯当たり資産保有状況，耐久消費財所有状況等の分析を行った上で，村内で行われている家内産業であるラタン手工芸品 (Rattan Handicraft: 以下 RH) 産業の現状を，当産業における従事者の男女比率，経験と技術，生産と価格の決定要因，原料ラタン生息地までの距離と採集費用及び原料ラタン保有量，RH の価格，需要と供給のポテンシャル等から明らかにし，当産業の課題と将来性を探る。

本稿の構成は以下の通りである。セクション 1 では調査対象村があるシェムリアップ州の概要を，セクション 2 では研究の背景と先行研究をまとめている。セクション 3 では，調査及び調査村であるポピセ村の概要を述べる。セクション 4 ではポピセ村の社会経済状況について，セクション 5 では RH 産業の状況についてそれぞれ分析を行う。これらの結果を基にセクション 6 では考察を行い，最後に本稿の結論をまとめる。

1　シェムリアップ州の概要

本稿の調査対象村があるシェムリアップ州[1)]は人口89万6,000人，首都プノンペンから約300㎞北上した場所に位置している。広さはおよそ10,299平方キロ，南部はトンレサップ湿原による低地で北部は樹木で覆われた地帯である。カンボジア全体の国土面積の約5.5％を占め，全24の州・特別市の内10番目の広さを持っており，12の郡と約100の行政区，900程度の村で構成される[2)]。世界遺産アンコール遺跡群を内包したカンボジア有数の観光地であることから，観光業の開発は進んでいるものの，州人口の大部分は未だに農村に居住している。2008年時点で農村部人口は72万2,178人，都市部人口は17万4,265人であり，農村部居住人口割合は約81％と非常に高い。シェムリアップ州における産業別就業者割合は第一次産業が大部分を占めている。しかし，1998年から2008年への変化を見ると，第一次産業のシェア率は約82％から73％へと減少する一方で，第二次産業及び第三次産業の数値は上昇している。特に，観光業を中心として第三次産業の値が約21％にまで上昇している事が特徴的である。

また，シェムリアップ州の貧困者比率は51.84％と半数以上が貧困に陥っている[3)]。この値はコンポンスプー (Kampong Speu) 州 (57.22％)，コンポントム (Kampong Thom) 州 (52.40％) に次いで3番目に高い数値である。貧困層の貧困ラインからの乖離度を示す貧困ギャップ比率及び貧困の重度を示す二乗貧困ギャップに関しては，それぞれ17.31％，7.46％とカンボジア全24の州・特別市の中で最も悪い値となっている。

シェムリアップ州は，中心街は観光業を中心とした開発がなされているが，州全体では開発の恩恵を享受できていない人が多く存在するという，二面性を備えていると言える。

2　研究背景及び先行研究

本稿の研究対象である家内産業の原料はラタン (藤) である。ラタンは，手工芸品や家具生産業に用いられる，カンボジアの経済及び社会の中で重要な非木材産物の1つである。ホート (Hourt, 2008) は，カンボジアのラタンの多様性や利用方法等に関して以下のように述べている。カンボジアには18種のラタンが確認されており[4)]，

---

1) シェムリアップ州のデータに関しては，Statistical Yearbook of Cambodia 2011 及び General Population Census of Cambodia 2008 −National Report on Final Census Results− を参照。
2) 行政区分の名称に関しては，高橋 (2001) を参照。
3) A Poverty Profile of Cambodia 2004 を参照。
4) 分類学的研究が進めば20種以上の種が期待されている (Hourt, 2008)。

それらのほとんどはラタン産業へと供給され，農作業の傍らで余剰所得のための手段を提供している。ラタンは，カンボジア農村生活発展及び国内経済に貢献する大きな可能性を持つものと見なされており，食料，建築材，漢方薬，家具等の幅広い用途で地域社会において，何世紀にもわたり利用されている。食用には多くの種の新芽が好まれ，ある種の葉は葺きに，特定の種の根は漢方薬に使用されている。そして，ラタンの茎は，家庭用品から家具に至るまで様々な製品の原料として用いられる。一般的に小さいものは，材料を結ぶロープや様々なタイプのバスケット作製に用いられ，中型から大型のものは，椅子やソファ，ベッド，衣装ダンスのような家具のフレームとして用いられる。ラタンは主に森林の中で成長し，種によって適した光量や土壌条件が異なるため，特定の森林では特定の種が生息するという特徴がある。しかし，ラタンの生息地は全国で減少傾向にある。その主な原因は，過剰収穫や森林土地の転換，頻繁なラタン生息地の火災等である。ラタンの量が減少することは，森林居住者及び生物多様性の両面に影響を及ぼすこととなる。現在，ラタンの収穫は適切に行われているとは言えず，植林も一般的には実施されていない。これにより，ラタン (原料ラタン，加工済み或いは最終製品化済みを含む) の安定供給は困難なものとなっている。また，カンボジアにおけるラタンの処理や商品開発に関する技術はそれほど開発されていない。加えて，原料ラタンに関する政府支援の欠如及び国内市場価格の低さから，これらのほとんどは国内ではなく近隣諸国に売却されている。一方で，国内生産の加工済み或いは最終製品化済み製品 (例えば，工芸品や家具等) は，主に国内で販売されているが，これはこれらの製品が輸出向けの品質には至っていないためである。カンボジア及びラオスで現在生産されている製品の 90％以上が，品質基準に達しておらず適切なライセンスも取得していないとの指摘もある[5)]。

カンボジアにおけるラタンを始めとした家内産業 (地場産業や手工業) の研究に関しては以下のようなものが挙げられる。廣畑 (2004) はカンボジアに存在する，基本的に小規模で零細な地場産業を数種類紹介している。その中で，様々な種類のざるや手提げ袋，帽子，ござ等を作製する手工芸品産業を紹介しており，その材料としては，ラタンの他に，竹の皮，オウギヤシやココヤシの葉，バナナの幹の繊維等，多くの物が使われている。デルヴェール (2002) によると，ラタンや竹の皮を用いたざる類の作製が特に重要性を持っている地域はカンボジア国内で数か所に限られており，その 1 つがシェムリアップ州クロバェイ・リェルとスランケという地域である。この地域では政府の奨励により RH 産業が発展した。材料のラタンの採れる森林が近く，観光客の消費市場と人手という条件が揃っていた事が選定の理由であると考えられる。ラタンの籠，特に小型の物を作製し，旅行者への販売や完成品のプノンペンへの発送等

5) Swithasia programme (http://www.switch-asia.eu/)。

を行うのである。この仕事は副業的なもので，主として働くのは女性である。一方，山に行き材料のラタンや竹を切り，竹を割るのが男性の仕事となる。仕事の期間は稲の収穫が終わった乾季の間に限られる上に，一般に製品の値段は非常に低く，儲けも少ない。近くの山に生息しているラタン等を採りつくしてしまえば，遠くの山まで採りに行かねばならず，交通費もかかる。故に，この仕事に従事している世帯は，常に最も貧しい世帯であると指摘している[6)]。

以上のように，カンボジアにおけるラタンそのものの保有量やそれを原料とした産業の重要性は認識されているものの，一方でその産業に従事している人々の社会経済状況を明らかにしている研究は少ない。故に，本研究ではこの点に重点を置き，当産業に従事している人及び村の生活状況の分析を行う。

3　調査及び調査村の概要

調査対象村の選定に関しては，アンコール大学及びアンコール大学経済開発研究所 (Angkor University Research Center for Economic Development: AURCED) の協力を仰いでいる。調査前に村長へのインタビューを行い，村内の状況を把握した上で調査村を決定した。村人が利用しているのはクメール語であるが，調査は英語で行うため，調査員として英語能力を持つアンコール大学生に協力を依頼した。調査内容は，世帯の所得や消費額といった経済的側面だけでなく，本稿の主目標である RH 産業の状況に関する項目や，教育水準や疾病状況などの社会的側面を含めている。調査方法は，回答者の記憶に大きく依存した形式になるため，特に世帯の所得や消費に関しては，全て完全なデータを入手できたとは断言できない。しかし，発展途上国，特に農村地域における世帯の社会経済状況に関する詳細なデータはそもそも存在しないことも多く，今回の調査データ及びそれを用いた分析結果も有意であると考える。

調査日は，2013 年 8 月 18 日から 20 日の 3 日間，調査方法は標本調査ではなく全数調査を採用した。RH 産業を行っている全世帯が対象となるため 58 世帯に対し調査を行った。調査対象は全 58 世帯で全人口は 311 人，平均世帯人数は 5.4 人である。表 3－1 には調査村の概要をまとめている。調査村であるポピセ村は，シェムリアップ州カラベイリエル (Krabei Real) 郡カラベイリエル行政区に属しており，シェムリアップ市街地から北方に約 9 キロ，アンコール遺跡群からは約 16 キロ，アンコール大学からは約 13 キロに位置している。図 3－1 はポピセ村の位置を示している。総土地面積は約 51 ha，内 33 ha が稲作に利用されている。さらに，約 3 ha を野菜生産に，約 15 ha を住宅として用いられている。村内には小学校及びヘルスケアセンター

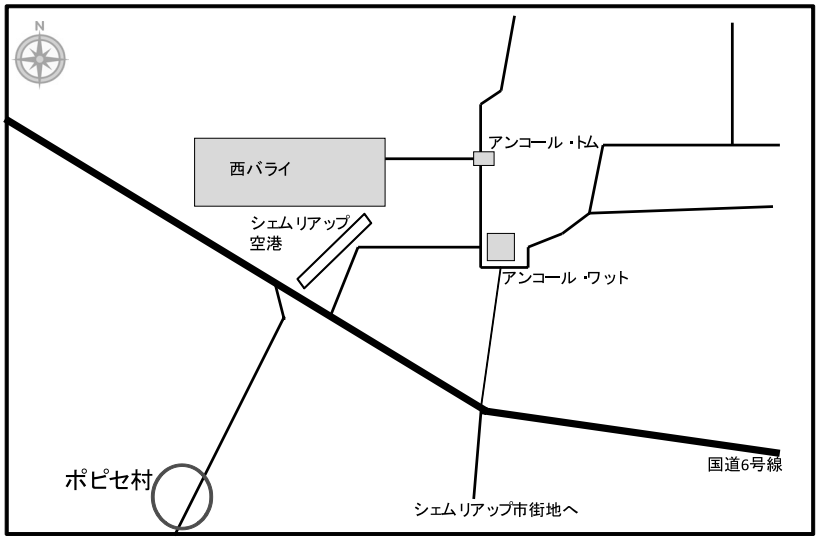
6) デルヴェール (2002，293 頁)。

表 3－1　ポピセ村の概要

1	調査対象世帯数	58 世帯
2	調査対象人口	311 人
3	平均世帯人数	5.4 人
4	世帯人数構成	
	1 人～4 人	22 世帯 (37.9％)
	5 人～7 人	26 世帯 (44.8％)
	8 人以上	10 世帯 (17.2％)
5	総面積	約 51ha
6	村の位置	
	シェムリアップ市街地までの距離	約 9km
	アンコール遺跡群までの距離	約 16km
	小学校	約 1km
	ヘルスケアセンター	約 1km
	ローカルマーケット	約 1km
7	総世帯数	97 世帯
8	総人口	441 人
9	平均世帯人数	4.5 人

出所）筆者作成。
注）項目 1～5 は調査データから算出，6～9 は村長のインタビューから得たものである。

図 3－1　ポピセ村の位置



出所）シェムリアップ州地図を基に筆者作成。

は存在していないが，同行政区内のものが利用可能である。村の総人口は 441 人で，その内男性は 217 人，女性は 224 人であった。総世帯数は 97 世帯，平均世帯人数は 4.5 人である。

4　ポピセ村の社会経済状況

本セクションでは，調査データから人口分布状況，世帯当たり所得による分布状況，世帯主状況，貧困状況，不平等状況，世帯当たり所得による階層別状況，耐久消費財所有状況の分析を行い，ポピセ村における社会経済状況を明らかにする。

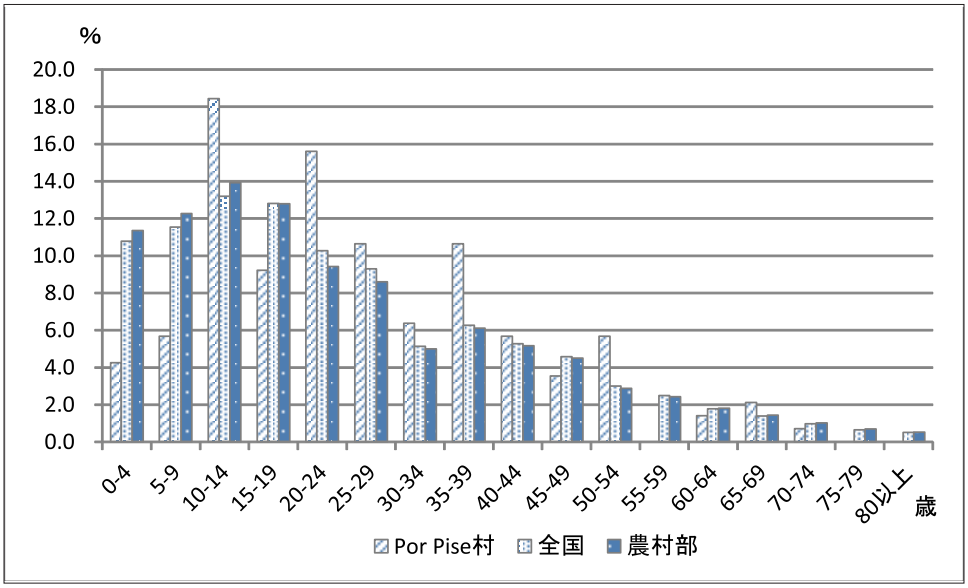
4－1　人口分布及び世帯当たり所得分布

図4－1及び図4－2は，ポピセ村とカンボジア全体及びカンボジア農村部の人口分布割合を男女別に表したものである。カンボジアの人口分布は，ポル・ポト政権下での急進的な共産主義に基づく虐殺が行われた過去を持つため，高齢者の割合が少ないという特徴がある。この全体的な傾向はポピセ村においても同様に見られる。

ポピセ村の男性の分布割合を見ると，10－14歳と20－24歳の割合がカンボジア全体及び農村部と比較しても突出して多い一方，女性の分布割合は，カンボジア全体及び農村部とそれほど大きな違いが見られない。また，男女とも0－4歳及び5－9歳の割合は比較的少ない。

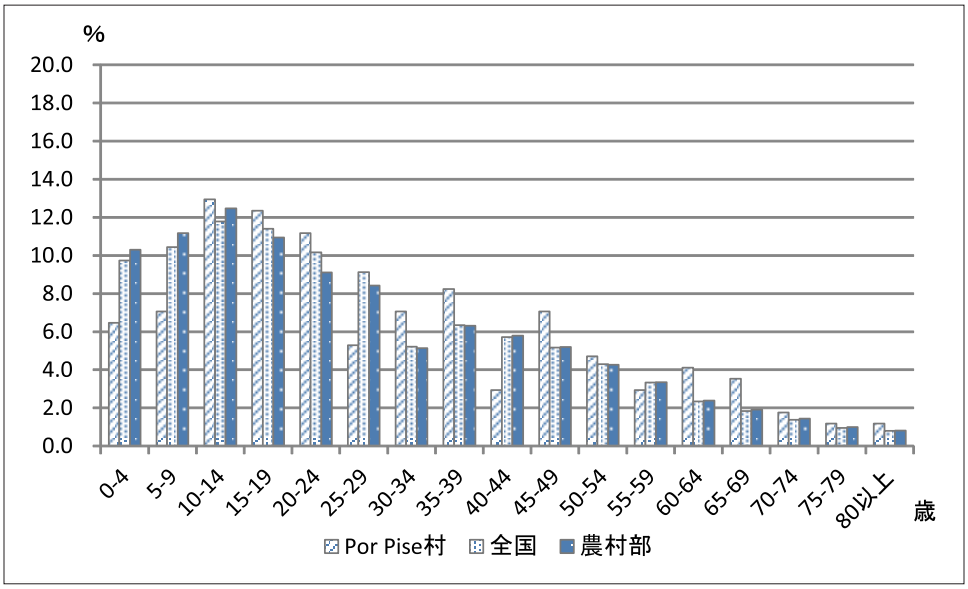
図4－3は，調査対象世帯を世帯当たり総所得額の低い順に並べたものである。総所得は，RH産業からの所得とそれ以外の所得とに分けて算出し，図内では左側の棒が前者を，右側の棒が後者を表している。RH産業からのみ所得を得ているのは2世

図4－1　男性の人口分布割合



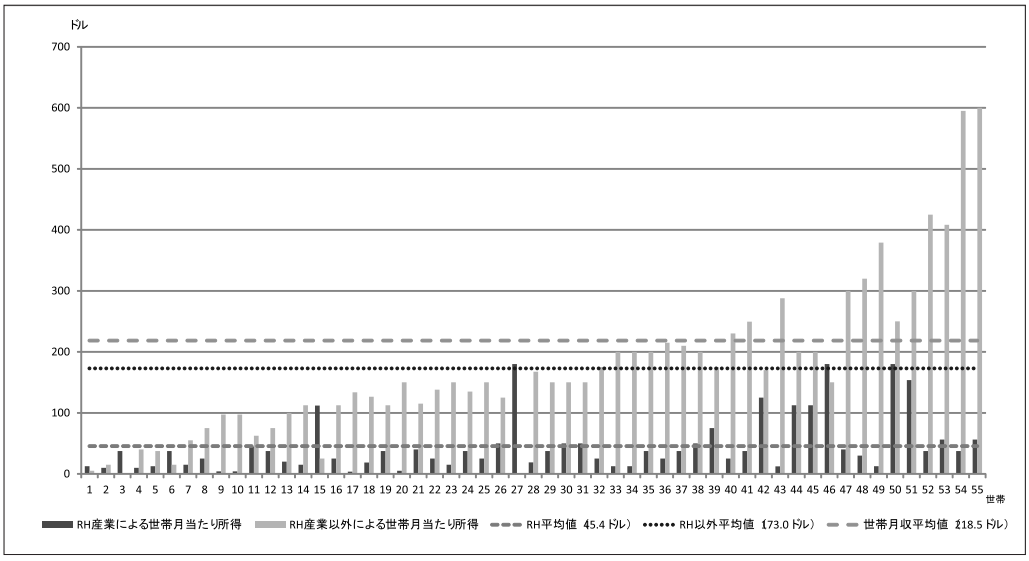
出所）筆者作成。
注）全国及び農村部の数値はNational Institute of Statistics & Ministry of Planning (2009) より作成。

図４－２　女性の人口分布割合



出所）筆者作成。
注）全国及び農村部の数値は National Institute of Statistics & Ministry of Planning (2009) より作成。

図４－３　ポピセ村における世帯当たり所得分布（RH 及びその他の所得配分）



出所）筆者作成。
注）RH とそれ以外の所得の構成比が不明であった 3 世帯を除いた 55 世帯の結果。

帯だけであり，ほとんどの世帯はRH産業以外からの所得も得ている。RH産業以外の職業としては，農業や野菜・果物の販売といった農業関連職，ドライバー，大工，音楽家，理髪師，マッサージ師，小売店経営といった自営業関連職，建設等工業労働，教師，警備員，清掃員といった賃金収入関連職等が挙げられ，その他に子供からの振り込みと回答したケースもあった。図内の3つの横点線は，低い順にRH平均値，RH以外平均値，世帯月収平均値を表している。RH平均値(45.4ドル)とRH以外平均値(173.0ドル)の間には大きな差異が生じており，RH産業による所得は基本的に低い状態に留まっていることが分かる。図内にて右側の世帯ほど総所得額が高くなっていることを表しており，RH産業以外の所得は右側に向かうにつれて高くなっている傾向が見て取れる。一方で，RH産業による所得額には同様の動きは見られず，高い所得を得ているのは数世帯のみ[7]という結果を示している。

4－2　世帯主の状況

表4－1は世帯主[8]の状況を男女別に分けてまとめたものである。男性が世帯主である世帯数は38世帯，全体の65.5％を占めているが，この割合は全国平均よりもかなり低い[9]。世帯主の平均年齢は男性が43.2歳，女性が57.2歳と男性世帯主の方が比較的若く，また，世帯平均人数に関しては男性が5.6人，女性が4.8人と男性の方が多くなっている。

世帯主の婚姻状況を見ると，男性の場合は全てが既婚であるのに対し，女性世帯主の多くは死別(68.4％)により世帯主となっている。世帯主の教育状況を見ると，全体的に男性の方が女性より教育レベルが高いことが読み取れる。男性世帯主は，初等教育を受けていた割合が31.6％と最も高く，次いで識字能力有りの状態，3番目が中等教育であるが，女性世帯主は非識字の状態が42.1％と最も高く，2番目が識字能力有りの状況となっている。世帯主がRH産業に携わっているかという項目では，男性が10世帯(26.3％)のみであるのに対し，女性は18世帯(94.7％)とほぼ全ての世帯主が該当した。世帯平均の月当たり所得を比較すると，女性の方が20ドルほど高い。しかしこれは，項目8及び9を見ると，RH以外からの所得の差によるものであると考えられる。

---

7) RH以外の平均値(173.0ドル)を超える所得を得ているのは，わずか3世帯である。

8) 本調査では，回答者が世帯主の意味を把握していない場合も多かったため，女性が世帯主と回答されていても，回答者が女性で配偶者が存在する場合や，回答者の父親が存在する場合は，その人を世帯主としている。

9) 2008年のカンボジア全体の男性世帯主の割合は74.41％，女性世帯主の割合は25.59％である(National Institute of Statistics & Ministry of Planning, 2009)。

表 4－1　男女別世帯主の状況

		男性	女性
1	世帯主の男女比	38 世帯 (65.5％)	19 世帯 (32.8％)
2	世帯主平均年齢	43.2 歳	57.4 歳
3	世帯平均人数	5.6 人	4.8 人
4	世帯主婚姻状況		
	既婚	38 世帯 (100.0％)	1 世帯 (5.3％)
	未婚	0 世帯 (0.0％)	2 世帯 (10.5％)
	離婚	0 世帯 (0.0％)	3 世帯 (15.8％)
	死別	0 世帯 (0.0％)	13 世帯 (68.4％)
5	世帯主教育状況		
	非識字	3 世帯 (7.9％)	8 世帯 (42.1％)
	識字能力有り	11 世帯 (28.9％)	6 世帯 (31.6％)
	小学校	12 世帯 (31.6％)	2 世帯 (10.5％)
	中学校	8 世帯 (21.1％)	2 世帯 (10.5％)
	高等学校	2 世帯 (5.3％)	1 世帯 (5.3％)
	大学	0 世帯 (0.0％)	0 世帯 (0.0％)
	不明	2 世帯 (5.3％)	0 世帯 (0.0％)
6	RH 産業従事者	10 世帯 (26.3％)	18 世帯 (94.7％)
7	世帯平均月当たり所得	204.0 ＄	223.9 ＄
8	RH 産業による世帯平均月当たり所得	54.0 ＄	24.7 ＄
9	RH 産業以外による世帯平均月当たり所得	158.6 ＄	200.5 ＄

出所）筆者作成。
注）調査対象である 58 世帯中 1 世帯は男女が不明のため，排除している。女性世帯主で既婚の 1 世帯は，現在配偶者が他州に居住している。8 及び 9 の項目に関しては，男性世帯主では 2 世帯，女性世帯主では 1 世帯が所得の構成割合が不明なため排除している。

4－3　貧困・不平等状況

ポピセ村の貧困状況を知るため，世帯当たり所得を世帯人数で除して，一人当たり所得を算出し分析を行った。ポピセ村の平均一人当たり月間収入額は，39.6 ドル，1 日当たり約 1.3 ドルとなる。本稿では，貧困状況を把握するために，カンボジア独自の貧困ライン[10]，一人 1 日 1 ドル以下，一人 1 日 2 ドル以下の 3 つの貧困ラインを用いて分析を行った。表 4－2 は各貧困ラインを基準としたポピセ村における貧困者数と貧困率をまとめたものである。3 つの中で最も緩く設定されているのはカンボジア独自の貧困ラインであるが，この基準における貧困者数は 111 人であり，35.7％が貧困状態にあることが分かる。また，貧困ラインを 1 日 2 ドルの基準にまで引き上げると，79.7％と 8 割近くが貧困状態にあるということが分かる。Ministry of

10）カンボジア独自の貧困ラインでは，首都プノンペン，その他都市部，農村部，カンボジア全体の 4 つに分けて貧困ラインを設定しており，今回の調査は対象が農村であるため農村部の貧困ラインを用いた。これは，食糧貧困ラインと非食糧貧困ライン及び清潔な水の価格を考慮して算出したもので，農村部における数値はそれぞれ一人 1 月当たり，69,963 リエル，35,350 リエル，1,247 リエルであり，これらを合計した月当たりの貧困ラインは一人当たり 106,560 リエル，約 26.6 ドルとなる (Ministry of Planning, 2013)。

Planning (2013) によると，このカンボジア独自の貧困ラインを用いた 2009 年のカンボジアの農村部の貧困率は 24.6％となっており，ポピセ村の状況は非常に深刻であると言えよう。

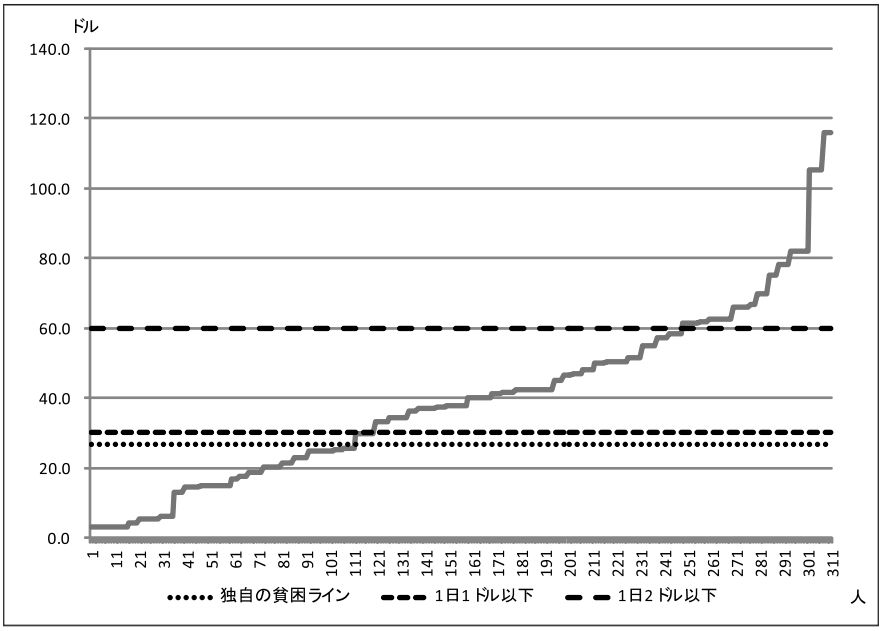
表 4－2　貧困状況

	1 日 1 ドル以下	1 日 2 ドル以下	カンボジア独自の農村部貧困ライン
貧困者数 (人)	111	248	111
貧困率 (％)	35.7	79.7	35.7

出所）筆者作成。
注）1 日 1 ドル以下及び 1 日 2 ドル以下は 30 を乗じて月間の貧困ラインを設定している。カンボジア独自の農村部の月当たり貧困ラインは 106,560 リエル，約 26.6 ドルである。

図 4－4 はポピセ村における一人当たり所得を低い順に並べ図示したものである。図内の横点線は各貧困ラインを表しており，低い順にカンボジア独自の貧困ライン (約 26.6 ドル)，1 日 1 ドル (30 ドル)，1 日 2 ドル (60 ドル) となっており，点線以下の人々は貧困に陥っていることを意味する。最も所得の低い段階から 80.0 ドルほどまでは徐々に上がっているが，それ以上になるとそれまでよりも急な上がり方を示しており，上位層の所得額はそれ以下の世帯と比較して高いことが窺える。

図 4－4　一人当たり所得及び貧困ライン



出所）筆者作成。

表 4－3 は，図 4－4 で表した横点線以下の四角部分に対する横点線から各数値までの不足分の割合で算出する貧困ギャップ率と一人当たり所得の累積比率及びジニ係数を表している。カンボジア独自の貧困ラインでのギャップ率が 0.16，1 日 1 ドルが 0.18，1 日 2 ドルが 0.39 であり，シェムリアップ州全体の貧困ギャップ率が約 17.3％ (0.1731) であるため，同程度のギャップが生じていると言える。ポピセ村の不平等状況はシェムリップ州内の他の村の状況[11] よりも比較的望ましく，ジニ係数は 0.24 に留まっている。単純な比較は不可能であるが，カンボジアの所得のジニ係数は 0.379[12] であるため，当村における不平等度は，カンボジア全体より低くなっている。しかし，所得累積の状況を見ると，下位 20％が占めるのが 4.64％に過ぎず，最下層の人々は厳しい生活環境に置かれていると予想される。

表 4－3　貧困ギャップ，一人当たり所得累積比，ジニ係数

貧困ギャップ			1 人当たり所得累積比					ジニ係数
1 日 1 ドル	1 日 2 ドル	カンボジア独自の農村部貧困ライン	20％	40％	60％	80％	100％	
0.18	0.39	0.16	4.64％	16.91％	36.41％	61.85％	100.00％	0.24

出所）筆者作成。

4－4　世帯当たり所得による階層別分析

次に，世帯当たりの月当たり所得を低い順に並べ 5 階層に分類し分析を行った。表 4－4 は階層毎の平均所得額，RH 産業による所得，また世帯主に関して男女別人数，男女別平均所得，男女別の RH 産業による所得をまとめたものである。

階層毎の平均所得額を見ると，第 1 層の値に対し第 2 層は 2 倍以上，第 3 層は 3 倍以上，第 4 層は 4 倍以上，第 5 層に至っては 7 倍以上であることが分かる。所得の内，RH 産業による所得額に関しても，第 3 層と第 4 層にて逆転が起こっているものの，階層が高いほど RH 産業による所得も高い傾向が見られ，第 1 層と第 5 層との間には約 4.8 倍の格差が生じている。階層毎の世帯主の性別人数に関しては，第 4 層では男女の人数にほとんど差がないが，それ以外の層では男性世帯主の人数の方が多く，女性世帯主の 2 倍以上となっている。階層毎の世帯月当たり所得額を世帯主の性別で分類すると，第 4 層を除く全ての層で女性世帯主の方が高い。特に第 1 層で

11）山川 (2014) の調査村，タットレイ村の貧困ギャップ率はカンボジア独自の農村部貧困ラインが 0.23，1 日 1 ドルが 0.26，1 日 2 ドルが 0.55 であり，ジニ係数は 0.33 であった。ただし，タットレイ村は村内の全世帯調査，本稿のポピセ村の調査は RH 産業を行っている世帯対象調査である点に注意が必要である。

12）Human Development Report 2013。

は女性世帯主の所得額は男性世帯主の約 1.7 倍である。男性世帯主の RH による所得額は階層が上がるほど高く，第 5 層では 100 ドル近い。一方で，女性世帯主の RH 産業による所得額は，世帯所得階層の高低にそれほど影響を受けていない。また，RH 産業による所得額は，第 2 層以外の階層では女性世帯主の方が低い。後述するように RH 産業従事者は女性が中心である。この職業は副業的に従事される傾向が多く，男性世帯主世帯の場合，世帯主が本業を行い，その他の世帯メンバーが家庭に留まって行うというケースが多いため，男性世帯主世帯の RH 産業による所得が多い。一方で，女性が世帯主の世帯では RH 産業を行える世帯メンバーもおらず，従事者がいても生産を行う時間も少なくなるケースが多いことが考えられる。

表 4－4　世帯所得階層別の状況（RH による所得及び世帯主の状況）

	世帯月当たり所得 (ドル)	RH 産業による所得 (ドル)	世帯主性別	人数 (人)	世帯月当たり所得 (ドル)	RH 産業による所得 (ドル)
第1層	58.8	16.8	男性	8	47.8	22.1
			女性	4	80.6	8.9
第2層	137.3	32.0	男性	8	133.4	30.5
			女性	4	145.1	35.0
第3層	185.6	48.9	男性	8	181.9	55.6
			女性	3	195.4	21.9
第4層	253.4	40.9	男性	6	255.9	58.3
			女性	5	250.4	20.0
第5層	438.5	81.5	男性	8	413.9	96.4
			女性	3	504.2	41.7

出所）筆者作成。
注）全 58 世帯中，世帯主の性別が不明である 1 世帯を除いた 57 世帯を所得の低い順に並べ，5 つの階層 (第 1 層及び第 2 層，12 世帯，第 3 層～第 5 層，11 世帯) に分類している。RH による所得に関しては，第 1 層にて男性世帯主の 2 世帯，第 3 層にて女性世帯主の 1 世帯が所得構成が不明なため，排除している。各層または性別ごとの平均値を算出している。

表 4－5　世帯所得階層別の消費構造状況

	世帯1日当たり食料費 (ドル)	一人1日当たり食料費 (ドル)	世帯年間被服費 (ドル)	一人当たり年間被服費 (ドル)	世帯年間医療費 (ドル)	一人当たり年間医療費 (ドル)	世帯月間調理用燃料費 (ドル)	一人当たり月間調理用燃料費 (ドル)	世帯月間電力消費 (ドル)	一人当たり月間電気消費 (ドル)
第1層	5.0	0.8	39.9	7.8	72.0	11.8	6.8	1.4	12.4	2.1
第2層	2.1	0.4	62.9	12.5	43.8	11.1	2.0	0.4	3.6	0.8
第3層	2.4	0.6	74.5	18.3	67.5	15.9	8.6	2.4	5.0	1.2
第4層	2.5	0.5	67.1	11.7	76.6	16.4	6.8	1.4	5.2	1.0
第5層	3.0	0.5	103.0	16.2	150.4	26.4	18.0	2.5	7.3	1.2

出所）筆者作成。
注）前表と同様に 57 世帯を 5 階層に分類している。医療費は月間分で回答している場合，12 を掛けて年間分を推定している。被服費では 4 世帯，医療費では 4 世帯，調理用燃料費では 9 世帯が未回答であったため，これらを排除して計算している。

表 4－5 は，前表と同様に世帯当たりの月当たり所得額に応じて 5 段階に分類した階層別の消費構造を示したものである。食料費は階層の高さとの関連は見られず，世帯当たり額も一人当たり額も第 1 層が最も高くなっている。また，一人当たり食料費はいずれの階層でも 1 日 1 ドルに達しておらず (最も低い第 2 層で 0.4 ドル)，農村部では食料費は少額に抑えられることが分かる。世帯当たり被服費は第 5 層のみ 100 ドルを超えている。一人当たり被服費に関しては第 2 層から第 5 層はそれほどの差が生じていないが，第 1 層だけは一人当たり 7.8 ドルに留まっている。世帯当たり医療費は第 5 層が突出して多い。2 番目に多い第 4 層の 2 倍ほどで，一人当たり医療費においても他の層よりも高いことが分かる。世帯当たり所得から考えると，下位層における医療費は大きな負担になっていると考えられる。調理用燃料費に関しては，第 5 層が比較的多く，第 2 層が特に少ない。電力消費では世帯当たり，一人当たりの両方において第 1 層が最も多く，他の階層が一人当たり 1 ドル前後であるのに対し，2 倍ほどの使用料となっている[13)]。

表 4－6 は，世帯当たりの月当たり所得額に応じて 5 段階に分類した，階層別の世帯当たり資産量と貯蓄額及び借金額を表している。資産の中には稲作地，野菜畑，所有土地及び家屋の価値を含めた。この表から，第 1 層の稲作地の保有量が他の層に比べ大幅に多いことが分かる。この階層では農業に携わっている割合 (人数や労働時間) が大きく，農業は直接現金収入につながらないことも多いために，世帯当たり所

表 4－6　世帯所得階層別の資産，貯蓄，借金状況

	世帯月当たり所得（ドル）	資産				貯蓄（ドル）	借金（ドル）
		稲作地（m^2）	野菜畑（m^2）	所有している土地及び家屋の価値（ドル）	所有している家畜の価値（ドル）		
第1層	58.8	59807.5	926.7	1857.1	477.3	2.3	850.0
第2層	137.3	3345.8	2658.3	3743.8	911.8	0.0	919.8
第3層	187.8	3591.2	1168.2	3440.6	750.1	4.5	1187.5
第4層	262.5	7170.0	1464.9	5852.1	851.1	21.3	1187.5
第5層	438.5	6277.3	936.4	7157.0	1234.3	18.2	700.0

出所）筆者作成。
注）調査対象の全 58 世帯を世帯所得の低い順に 5 階層 (第 1 層～第 3 層，12 世帯，第 4 層と第 5 層，11 世帯) に分類している。稲作地では，1 世帯，野菜畑では 3 世帯，所有している土地及び家屋の価値では，18 世帯，貯蓄では 2 世帯，借金では 7 世帯が未回答であったため，これらを排除して算出している。ただし，貯蓄の項目では全 58 世帯中 50 世帯は 0 と回答している。家畜は世帯が所有している牛，水牛，鶏，アヒル，ヤギ，豚の調査時の現地価格から算出している。現地価格が未回答の場合は，回答結果から平均値を算出し利用している。

13) 第 1 層の高さは，第 1 層に属する全 12 世帯中 2 世帯が月当たり 50 ドル以上と回答しているからである。生活用光源の他にレクレーションとして比較的多くの電気を利用していると考えられる。

得額も低くなっている可能性も考えられる。野菜畑の保有量は第2層が比較的多いが，その他の層では1,000 m^2 程度である。所有土地及び家屋の価値は，第2層と第3層で逆転が起きているものの，ほぼ世帯当たり所得の高さに比例して高くなっている。特に上位層（第4層，5,852.1ドル，第5層，7,157.0ドル）が保有している額は非常に多い。また，所有している家畜の価値に関しては，第1層が500ドルに達していないのに対し，最も多い第5層はその約2.6倍である。

貯蓄額に関しては，第2層では0ドル，最も多い第4層でも21.3ドルしかなく，ほとんどの世帯は貯蓄を行えるだけの経済的余裕を有していないことが窺える。借金額は，第1層から第4層まで階層が上がるごとに高くなっているが，第5層では700.0ドルと最も低い。しかし，どの階層においても平均借金額は少ないとは言えず，多くの世帯の経済状況は厳しいと思われる。また，借金をしている世帯数は37世帯（全体の63.8％）で，その平均額は1,354.4ドルとなっている。借金を行った理由に関しては，「家屋の建築」，「家畜（牛，豚）の購入」，「医療費」等が挙げられる。借入先は，友人や親戚及び銀行は少なく，大部分は非公式貸し手によるものである。また，マイクロクレジットを利用しているのは13世帯（22.4％）に留まっており，その平均額は1,403.3ドルと，借金の平均額に比べやや高い。村民が公式の銀行やマイクロクレジットを利用するには，店まで足を運ばなければならないため，村内で容易に利用出来る非公式貸し手を選択しているケースの方が多いのだと考えられる。

4－5　耐久消費財所有状況

表4－7は，耐久消費財の所有状況をまとめたものである。所有世帯数は，対象物を1つ以上所有している世帯数を表しており，世帯当たり普及率は，対象物の総台数を総世帯数で除して求めたものである。

テレビは15世帯が所有しており普及率は25.9％に過ぎず，あまり高くない[14)]。ラ

表4－7　耐久消費財所有状況及び普及率

	耐久消費財											
	テレビ	ラジオ	カセット	ビデオ	CD(DVD)プレーヤー	冷蔵庫	自転車	バイク	車	発電機	パソコン	携帯電話
所有世帯数	15	3	1	0	4	0	34	24	0	0	1	27
世帯当り普及率(%)	25.9	5.2	1.7	0.0	6.9	0.0	105.2	46.6	0.0	0.0	1.7	87.9

出所）筆者作成。
注）耐久消費財の場合，対象物の所有世帯数が極端に少ないことも多く，対象物の価格の差が大きいことから，前表までのような世帯階層別分析は行っていない。

14）同じくシェムリアップ州内のタットレイ村でのテレビ普及率は132世帯中63世帯（約47.7％）である（山川，2014）。

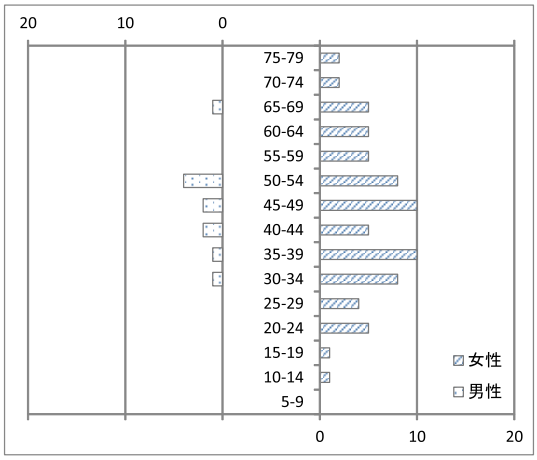
ジオやカセット，ビデオ等のその他の娯楽用品の所有世帯数も非常に少ない。ポピセ村は電気供給が行われており，電気を利用している世帯も多く，この面でのインフラ開発は農村部としては進んでいると言えるが，冷蔵庫やパソコン等はほとんど普及していない。村内や市街地への移動に利用される自転車やバイクの所有世帯数は多く，それぞれ 34 世帯と 24 世帯となっている。自転車の世帯当たりの普及率は 100％を超えており，平均すると 1 世帯当たり 1 台以上所有していることになる。また，携帯電話の所有世帯数も 27 世帯と比較的多く，普及率は 87.9％に達している。

5　ラタン手工芸品産業の状況

本セクションでは，ポピセ村で行われている家内産業である RH 産業の現状及び課題と将来性を明らかにする。そのために，当産業の雇用と所得状況に関する調査を行った。調査項目として，① 経験と技術，② 生産と価格の決定要因，③ 原料ラタン生息地までの距離と採集費用及び原料ラタン保有量，④ ラタン手工芸品の価格，⑤ 需要と供給のポテンシャルを採用している。本来，人の持つ技術レベルを正確に測定することは非常に困難である。故に，本調査では，RH 産業に関する経験年数，1 日当たり労働時間，週当たり労働日数等の質問から調査回答者の技術レベルを推定する方法を選択した。

まず，ポピセ村で RH 産業に従事している全員を，男女別年齢層別に分類したものが図 5－1 である。RH 産業に従事 (本業として，或いは農業等他の職業と兼業) している人数は 82 人である。男女比は男性が 11 人，女性が 71 人であり，デルヴェール (2002) の指摘通りこの職業は女性が主となっていると言える。女性の構成を見ると，

図 5－1　RH 産業従事者の年齢別構成



出所）筆者作成。

35－39 歳及び 45－49 歳の 10 人が最も多く，後は各世代に少数ずつ存在している。最年少は 14 歳の女性，最高齢は 76 歳の女性である。

以降は，インタビューを受けた回答者本人に対する分析結果であり，回答人数は男性 3 人，女性 54 人で，平均年齢は男性が 43.0 歳，女性が 46.0 歳であった。

5－1　経験と技術

表 5－1 は RH 産業の経験と技術，労働時間及び商品価格についてまとめたものである。平均経験年数は 27.9 年と RH 生産者の多くは長い経験を持っている。作製可能な RH の種類は 2.7 個と比較的少ないが，新しいデザインを入手した場合に作製が可能かという質問に対しては，40 人 (69.0％) が可能と回答している。注文に応じて新しい製品を作製した経験を持つ人も 24 人 (41.4％) であり，ポピセ村における RH 生産者は十分な経験を持ち，将来に新しい需要が生じた場合に，それに対応できる技術を備えていると考えられる。

RH 産業の労働時間は，1 日当たり 5.6 時間と一般的な職業と比較すると短い。しかし，この職業は家庭が主な労働場所であり，彼らは子供の世話や料理等の家事労働と同時に生産を行っているため，RH 生産に充てた正確な労働時間の算出は非常に困難である。世帯当たりの労働人数は 1.3 人であり，2 人以上が当産業に従事している世帯は少ない。

作製する商品価格の中で最安値の平均値は 1.1 ドル，最も高い商品でも 3.3 ドルに過ぎないため，当産業の経済的規模は非常に小さいものである。しかし，製品作製にかかる時間は，最も安いもので 4.0 時間 (1.3 日)，最も高いものでも 5.8 時間 (2.6 日) ほどで，比較的短時間で製品を完成させることが出来る。またこれは，トレーニングにより作製時間の短縮が見込めると考えられる。調査時に，無料でトレーニングを受けられるならば参加したいと回答したのは 37 人 (63.8％) に達しており，村人が利用

表 5－1　RH 産業の経験と技術レベル，労働時間，商品価格

経験と技術		商品価格	
平均経験年数 (年)	27.9	最も安い商品の平均値 (ドル)	1.1
作製可能な RH の種類数	2.7	平均必要時間 (時)	4.0
労働時間		平均必要日数 (日)	1.3
平均 1 日当たり労働時間 (時)	5.6	最も高い商品の平均値 (ドル)	3.3
平均週当たり労働日数 (日)	5.6	平均必要時間 (時)	5.8
平均月当たり労働日数 (日)	23.3	平均必要日数 (日)	2.6
平均世帯当たり労働人数 (人)	1.3		

出所）筆者作成。

しやすいトレーニング施設を作る等の環境を整えれば，作製効率の向上，さらには，製品品質の向上を達成することが可能であろう。

5－2　生産と価格の決定要因

RH 生産及び商品価格の決定要因についてまとめたものが表 5—2 である。RH の生産量や種類を決めるのは「注文量に応じて」という回答が最も多く，74.1％に達している。このことは，注文量の増加及び安定した注文量の確保が出来れば，産業としての規模を拡大することも可能であることを表している。しかし，「自分のペース」，「利用可能な原料ラタン量に応じて」，「天候に応じて」という回答も，それぞれ 8 人 (13.8％)，9 人 (15.5％)，4 人 (6.9％) あり，生産量は出来高次第と考えている者も多い。また，ほぼ全ての世帯における商品価格は顧客及び仲介人の掲示する価格によって決定している。生産者が実際に商品の販売されているシェムリアップ市街地やアンコール遺跡群界隈の土産品店に自ら赴き，商品価格を調べるようなことは行われず，多くは村に商品を買い取りに来る仲介人の提示する価格にて販売しているのが現状である。

表 5－2　RH の生産と価格の決定要因

製品作製の決定要因	人	割合 (%)	価格の決定要因	人	割合 (%)
自分のペース	8	13.8	原料費及び作製必要時間	0	0.0
注文量に応じて	43	74.1	顧客及び仲介人の提示する価格	57	98.3
製品価格に応じて	5	8.6	シェムリアップ市街地での価格	0	0.0
利用可能な原料ラタン量に応じて	9	15.5			
天候に応じて	4	6.9			
その他の要因	1	1.7			

出所）筆者作成。
注）いずれも複数回答可。

5－3　原料ラタン生息地までの距離と採集費用及び原料ラタン保有量

RH は，当然原料となるラタンの確保が必須となる。セクション 2 でも述べたようにラタン生息地は減少しており，ラタンの採集を近隣地で行えているのは少数に過ぎない。回答者の多く (77.4％) はカンポントム (Kampong Thom) 州まで赴いていると回答している。採集地までは平均 101.5 キロの距離で，ラタンを伐採し運んで帰ってくるまでの一連の作業にかかるのは，平均 14.2 時間或いは 1.4 日，その平均費用額は 4.3 ドルである。

ラタンの生息地には野生のものと私有地のものがある。生息地の所有者に料金を支

払う必要があると回答したのは 11 人のみと少数であり，その平均金額は 6.5 ドルであった。一回の採集で入手出来るラタン量は，平均 278.9 ピース或いは 7.0 束で，これは通常，平均 19.1 日利用することが出来る量である。一方，原料ラタンを購入しているのは 16 人 (27.6％) であり，1 束当たりの平均費用は 5.7 ドルと，自ら採集に行く場合に比べて割高になっている。また購入はポピセ村内で行われている場合がほとんどである。原料ラタンの保有量に関しては，原料ラタンが不足していると回答したのは 13 人 (22.4％) であり，十分に入手出来ていない世帯も存在している。

5－4　ラタン手工芸品の価格

過去 2〜3 年の内に，RH 価格が向上したと回答したのは 3 世帯，反対に下落したと回答したのは 4 世帯であり，大半の世帯 (48 世帯，82.8％) は変化が生じていないと回答していることから，大きな価格の変動は起こっていないと考えられる。

表 5－3 は RH 製品の価格を示している。現在の RH 製品価格に関しては，村内での小売価格は 1.52 ドルなのに対し，仲介人買い取り価格は 1.36 ドル，市場価格は 2.00 ドルに達している。この差額は小さいものであるが，当産業の商品自体の低価格さから，大きな意味を持つと言える。生産者自身が仲介人を介さずに市場にて販売するシステムを確保できれば，利益を向上させることも可能であろう。また，当村での製品は品質が低い物も多く，これも低価格の原因の一つと考えられる。製品品質の向上及び安定化を達成できれば，価格の引き上げも見込めるのではないだろうか。

表 5－3　RH 製品価格

RH 製品価格	
村での小売平均価格 (ドル)	1.52
仲介人買い取り平均価格 (ドル)	1.36
市場平均価格 (ドル)	2.00
卸売平均価格 (ドル)	1.48

出所）筆者作成。
注）村内で最も普及している製品の価格を質問しているため，コースター等の比較的小さい商品の価格となっている。

5－5　需要と供給のポテンシャル

表 5－4 は需要と供給のポテンシャルをまとめたものである。需要を測る代替項目として月当たり売上額を質問した結果，世帯当たりの月当たり平均売上額は 31.5 ドル，過去の月当たりの最高売上額の平均値は 42.3 ドル，最低売上額は 27.3 ドルであった。これは，他の職業の所得額と比較しても低い。

表 5－4　RH 産業の需要と供給のポテンシャル

月当たり売上	
月当たり売上平均額 (ドル)	31.5
月当たり最高売上平均額 (ドル)	42.3
月当たり最低売上平均額 (ドル)	27.3
供給のポテンシャル (質問に対し，「はい」と回答した人数 (割合))	
市場の需要に対応出来る生産能力があるか	23 人 (39.7％)
より多い供給を行う時間があるか	18 人 (31.0％)
より多い供給を行うための原料ラタンを保有しているか	30 人 (51.7％)
より多い供給を行う労働力があるか	21 人 (36.2％)
新製品注文に対する十分な技術があるか	26 人 (44.8％)

出所）筆者作成。

また，今後 RH 産業に対する需要が向上すると仮定した場合，それに対応する十分な生産能力を当村が持つかどうかという供給のポテンシャルを推定した。市場の需要が増加した場合に，それに対応出来る生産能力があると回答したのは 23 人 (39.7％) であり，生産に必要な要素を，時間，原料と労働力とに分けて質問した結果，その時間があると回答したのは 18 人 (31.0％)，生産のための原料ラタンを保有していると回答したのは 30 人 (51.7％)，労働力を備えていると回答したのは 21 人 (36.2％) であった。原料ラタン量に関しては半数以上が可能であると回答しているが，それ以外の項目は 30％台に留まっており，実際に，供給を即座に増加させる能力を備えている人数は少ない可能性が高い。また，新製品の注文がある場合に，それに対応する技術をもっていると回答した人数も 26 人 (44.8％) と半分に達していなかった。現時点における供給のポテンシャルはそれほど高いとは言えず，まだ開発の余地を残していると言えるだろう。

6　考　察

ポピセ村において，RH 産業は主に副業として行われており，RH 産業以外からの所得も得ている世帯が多く存在している。また，RH 産業以外の所得額に関しては，世帯全体の所得が向上するほど高くなる傾向が見られるが，RH 産業の所得にはそのような傾向は見られない。現状として，世帯の所得が増加したとしても RH 産業は家事などの合間に行われているようである。調査対象世帯の世帯主の性別比率は，女性が 32.8％であり，その多くは死別により世帯主になっている。教育レベルは男性世帯主に比べて全体的に低い一方で，世帯当たりの所得は男性より高いが，これは RH

産業以外の所得によるものであった。調査対象世帯の所得から，世帯の家計は厳しいと考えられるが，不平等度は比較的低く抑えられている。世帯所得の高低による階層別の分析によると，被服費や医療費，調理用燃料費等の消費額，所有土地・家屋の価値に関しては，高位の階層世帯ほど高いものの，食料費や借金額に関しては，そのような関係は見られなかった。

RH 産業に関して明らかになったことは以下の通りである。① RH 産業は主に幅広い年齢層の女性により行われている。② 各家庭にて行われるため，正確な労働時間は測りにくいが，一般的な就業時間よりも短い。③ 商品価格はあまり変化していないが非常に安価である上に，価格の決定権は仲介人が握っており，生産者自身が市場価格を調べることも少ない。④ 生産は注文量に応じて決定すると回答した人が最も多いが，生産量は出来高次第と考えている生産者も多数存在する。⑤ 近隣のラタン生息地の減少から，原料ラタンの採集のためには，時間と費用が掛かる。⑥ 月当たり平均売上額は 30 ドル程度であるが，安定した需要を確保出来れば，産業として開発を進めることも可能と思われる。しかし，実際に供給を即座に増加させる能力を備えている人数は少数だと考えられる。

ポピセ村では多くが RH 産業に従事しているため，当産業の開発を行うことは当村の開発に大きく寄与すると言える。その際に，特に問題となるのは，村の生産者の当産業に対する認識の低さにあると思われる。生産者の多くはコストの計算を行っておらず，原料ラタン量当たりの作製可能な製品量を回答できなかった。経験年数や技術レベルから見ると，当産業をより発展させることは不可能ではないと思われるが，そのためには村民の意識の変化が必要であろう。故に，当産業をビジネスとして捉え，正確な費用を算出すること，供給を安定させること，仲介人と価格交渉を行える能力を身に着けること，品質を高めるトレーニングを行うこと等を行えば，RH 産業の開発を進めることが出来ると考える。トレーニングに対しては，多くが積極的に参加したいという姿勢を見せており，村民が利用しやすい施設を整備する等のバックアップを行えば，製品品質の向上も見込め，製品価格の引き上げも可能であろう。

おわりに

本稿はシェムリアップ州内の農村調査を基に，村内の社会経済状況と RH 産業の現状と課題及び将来性を明らかにすることを目的とし分析を行った。

RH 産業で得ることが出来る所得額は，その他の職業に比べると非常に低かった。また世帯所得額に関する分析の結果，ポピセ村では一般的に低くなりがちである女性世帯主世帯の方が男性世帯主世帯よりも高いという結果となったが，この差は主に RH 産業以外の所得の差によるところが大きく影響していた。これらの点を考慮する

と，この村における世帯経済状況改善のためには，現在 RH 産業に従事している人が，より所得が高い職業へと転職することが有効であるように見える。しかし，RH 産業には村民が各家庭から遠く離れずに行えるという他の職業にはない大きなメリットを持っており，またこの産業には開発の余地が残されていることも明らかになった。よって，現在の村の社会状況を崩さずに，経済的な改善を目指すためにも，当産業は必要不可欠であり，当産業の開発を進めることは重要であると考える。

本研究では，RH 産業の開発の必要性について述べるに留まった。今後の研究課題として，当産業の開発を進めるために村人のビジネス意識を向上させることや，前述したトレーニング施設建設を行い，その効果を調査分析することが挙げられる。

参　考　文　献

[1]　天川直子，2001，「カンボジアにおける国民国家形成と国家の担い手をめぐる紛争」，『カンボジアの復興・開発』，天川直子編，アジア経済研究所，研究双書 No. 518，21−65 頁。

[2]　天川直子，2004，「カンボジア農村の収入と就労－コンポンスプー州の雨季米作村の事例－」，『カンボジア新時代』，天川直子編，アジア経済研究所，研究双書 No. 539，327−377 頁。

[3]　上田広美，岡田知子編著，2012，『カンボジアを知るための 62 章【第 2 版】』，エリア・スタディーズ 56。

[4]　高橋宏明，2001，「近現代カンボジアにおける中央・地方行政制度の形成過程と政治主体」，『カンボジアの復興・開発』，天川直子編，アジア経済研究所，研究双書 No. 518，67−110 頁。

[5]　デルヴェール, J, 2002，『カンボジアの農民－自然・社会・文化』，及川浩吉訳，風響社。

[6]　廣畑伸雄，2004，『カンボジア経済入門　市場経済化と貧困削減』，日本評論社。

[7]　山川貴裕，2014，「カンボジアの農村における社会経済状況　—シェムリアップ州タットレイ村の事例—」，『熊本学園大学経済論集』，第 20 巻　第 1−4 合併号，59−101 頁。

[8]　Foster, James, Greer, Joel & Thorbecke, Erik. 1984. A Class of Decomposable Poverty Measures. *Econometrica.* Vol. 52, No. 3. pp. 761−765.

[9]　Hourt, Khou Eang. 2008. *A Field Guide of the Rattans of Cambodia.* WWF Greater Mekong-Country Programme. Phnom Penh.

[10]　Lwin, Maung Maung. 2011. *Investigating Village Socio-economic Condition and Possibility of Poverty Reduction through Sample Survey* (*The Case of Rattan Handicraft Village of Siem Reap, Cambodia*). 『海外事情研究』第 39 巻第 1 号. 63−86 頁.

[11]　Ministry of Planning. 2006. *A Poverty Profile of Cambodia 2004.* Royal Government of Cambodia.

[12]　Ministry of Planning. 2013. *Poverty in Cambodia —A New Approach Redefining the poverty line—.* Royal Government of Cambodia. Phnom Penh.

[13]　National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2009. *General Population Census of*

Cambodia 2008 —National Report on Final Census Results—. Phnom Penh, Cambodia.

[14] National Institute of Statistics & Ministry of Planning. 2011. *Statistical Yearbook of Cambodia 2011*. Phnom Penh, Cambodia.

[15] United Nations Development Programme. 2013. *Human Development Report 2013 —The Rise of the South: Human Progress in a Diverse World—*. United Nations Development Programme.

[16] World Bank. 2006. *Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006*. World Bank.

[17] World Bank. 2009. *Poverty profile and trends in Cambodia, 2007 —Findings from the Cambodia Socio-Economic Survey* (*CSES*)—. Poverty Reduction and Economic Management Sector Unit East Asia and Pacific Region.

[18] WWF. 2010. *Establishing a Sustainable Production System for Rattan Products in Cambodia, Laos and Vietnam*. Project Preparation Report. Potential Assessment and Proposing Cleaner Production Solution for Rattan Sector in Indochina.

[19] WWF. 2011. *Sustainable Rattan Design —the Mekong Region—*.

[20] Yamakawa, Takahiro. 2011. *Extent of Poverty Its Challenges: Survey Result & Policy Suggestions —The Case of Some Selected Villages in Siem Reap, Cambodia—*. AURCED Discussion Paper. Angkor University Research Center for Economic Development.

[21] Yamakawa, Takahiro. 2012. *Investigating the Socio-economic Condition of Rural Cambodia —The Case of Bra Youth Village, Siem Reap—*. AURCED Discussion Paper. Angkor University Research Center for Economic Development.

[22] Swithasia programme. http://www.switch-asia.eu/ (2014. July 7).

[23] The MDG Achievement Fund (MDG-F). *Cambodia-Culture-Improvement Plan*. PDF document. http://www.mdgfund.org/ (2014. May 30).

The Viability of Domestic Cottage Industry in Rural Cambodia —The Case of Rattan Handicraft Industry in Por Pise Village, Siem Reap Province—

Maung Maung Lwin
Takahiro YAMAKAWA

The paper attempts to clarify the current status, challenge, and potential of rattan handicraft industry by using survey results in Por Pise village, Siem Reap province. Section 1 introduces the general information of Siem Reap province. Previous research and study background about rattan handicraft industry are summarized in section 2. Section 3 provides an outline of surveyed Por Pise village. Survey analyses are performed in section 4 and section 5. In section 4, the socio-economic conditions of this village are focused, and the situation of rattan handicraft industry is examined in section 5. Results of analyses are given in section 6. The last section of this paper is comprised of a summary of conclusions. The results advocate that the economic scale of rattan industry is small but the social benefits are large. Therefore, it is appropriate to conclude that the development of rattan industry is important and essential for sustaining the daily lives of village people.